

## 第 58 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 24 年 11 月 20 日 (火) 15 : 00~16:55
- II 会 場 筑波大学東京キャンパス文京校舎「3 階 337 会議室」及びサテライト会場：筑波キャンパス本部棟 8 階「特別会議室」(茨城県つくば市天王台 1-1-1)
- III 出席者〔学外委員〕  
乾正人、金澤一郎、河田悌一、岸輝雄、小林誠、中村道治、三屋裕子、吉田和正  
〔学内委員〕  
赤平昌文、鈴木久敏、辻中豊、米倉実、清水一彦、宇川彰、五十嵐徹也、東照雄  
〔オブザーバー〕  
永田学長補佐室長  
猿渡大学執行役員 (ビジネスサイエンス系長)、三明大学執行役員 (数理物質系長)、  
高木大学執行役員 (システム情報系長)、白岩大学執行役員 (生命環境系長)、  
宮本大学執行役員 (人間系長)、中川大学執行役員 (体育系長)、  
玉川大学執行役員 (芸術系長)、松本大学執行役員 (図書館情報メディア系長)、  
佐藤計算科学研究センター長

## IV 議 題

### 〔審 議〕

- (1) 平成 24 年度寄附金資金運用計画の一部変更について ----- [審議 1 資料]
- (2) アイソトープ環境動態研究センターの設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について ----- [審議 2 資料]
- (3) 国際統合睡眠医科学研究機構の設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について - [審議 3 資料]
- (4) 国家公務員退職手当法等の一部改正を受けた本学の対応について ----- [机上配付資料]

### 〔報 告〕

- (1) 平成 24 事業年度中間決算について ----- [報告 1 資料]
- (2) 平成 23 年度に係る業務の実績に関する評価結果について ----- [報告 2 資料]
- (3) 第 102 回教育研究評議会報告 ----- [報告 3 資料]

### 〔その他〕

#### 〔部局の活動報告及び意見交換〕

計算科学研究センター長

## V 議 事

### 〔審 議〕

- 1 平成 24 年度寄附金資金運用計画の一部変更について  
米倉副学長・理事から、審議 1 資料に基づき、平成 24 年度寄附金資金運用計画の一部変更について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- 2 アイソトープ環境動態研究センターの設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について  
赤平副学長・理事から、審議 2 資料に基づき、アイソトープ環境動態研究センターの設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。  
各委員からの主な発言等は、以下のとおり (以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)。  
○ 放射性物質の環境影響の把握は、筑波大学と福島大学の 2 校が中心になって行うということか。

△ 国立大学改革強化推進事業に関する採択がまだ決まっていないが、これが採択されれば筑波大学だけではなく、他大学とも連携する予定であり、それに関する受け皿としても設置したいと考えている。

3 国際統合睡眠医科学研究機構の設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について  
赤平副学長・理事から、審議3資料に基づき、国際統合睡眠医科学研究機構の設置及び設置に伴う法人規程等の一部改正について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

4 国家公務員退職手当法等の一部改正を受けた本学の対応について  
清水副学長・理事から、机上配付資料に基づき、国家公務員退職手当法等の一部改正を受けた本学の対応について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

各委員からの主な発言等は、以下のとおり。

○ 国立大学法人全体に係る問題でもあり、国立大学協会などの動きはないのか。

△ 優秀な人材が私立大学等に流出しないように、大学としても何らかの対応をしていきたい。

#### [報告]

1 平成24事業年度中間決算について

米倉副学長・理事から、報告1資料に基づき平成24事業年度中間決算について報告があった。

2 平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果について

宇川副学長・理事から、報告2資料に基づき、平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

各委員からの主な発言等は、以下のとおり。

○ 大変努力されているが、業務の実績に関する評価を数年継続させると大学が良くなるという実感はあるか。

△ 良い方向に動いていると感じている。

○ 大変素晴らしいものである。このような取組は、外部から認識を持ってもらうことが大切であり、そこまで到達するのが非常に難しい。現在企業は、ここに大変な力を入れており、それが最終的に競争力という形で結果として結び付いてくる。また、時々議論になるが、日本でアンケートを実施すると、良いことも悪いことも全部3になってしまう。良いか、悪いかとすると、次のレベルが見えてくる。つまり、3でうまくいっていないものは2になり、うまくいっているところは4になる。しかし、日本における自己評価は厳しいため、うまくいっていても4は付けない。ただ、世界ルールで見ると4を付けないとどうしようもないこともあり、場合によっては5も付けることになる。外部から見たときに、是非とも3ではなくて4と5の評価を目指してほしい。そして、その結果を積極的にプロモーションし、外部からも筑波大学が変化しているということを見える化すべきではないか。

△ 国立大学は法人化するまでは、物事を計画し、それを達成するという考え方はあまりなかった。平成16年度以降、初めてそういう考え方が導入されたが、それは非常に大きなことである。大学全体を見ると、まだ改善しなければいけないところもあるが、第2期に入り、考え方がかなり浸透してきたのではないかと感じている。それから、3では不十分ではないかということをご指摘のとおりである。特に業務については、順調に進捗していることを担保するのが最初である。その上で6年間を見たときに、計画より進んだと評価されるところが特に大学にとって大事なところである。一方、教育、研究については、86法人の中で、本学は計画の達成目標を超えて、「特筆すべき進捗状況にある」という評価を目指すべきであり、その評価を幾つか取れるような取組を進めるべきではないかと、学内に伝えている。

○ 教育、研究と言われたが、先週12日の中央教育審議会教育部会で筑波大学と金沢大学が目覚ましい大学改革を行っているという事例発表があった。文部科学省としては、このような取組をもう少し評価しなければいけないのではないか。

△ 特に組織改革「系」の設置は、文部科学省からもお褒めの言葉をいただいた。来年には5段階評価の5が幾つか出るように努力していきたい。

### 3 第102回教育研究評議会報告

清水副学長・理事から、報告3資料に基づき、前回の本会議以降に開催された、第102回の教育研究評議会の議事の概要について報告があった。

〔その他〕

- 1 「筑波大学東日本大震災復興・再生支援ネットワーク（第1次報告書）」、「筑波大学社会貢献プロジェクト（2011）」及び「筑波大学による茨城県北及び鹿行震災復興シンポジウム」について  
米倉副学長・理事から、席上配付資料に基づき「筑波大学東日本大震災復興・再生支援ネットワーク（第1次報告書）」、「筑波大学社会貢献プロジェクト（2011）」及び「筑波大学による茨城県北及び鹿行震災復興シンポジウム」について報告があった。

各委員からの主な発言等は、以下のとおり。

- 素晴らしい取組だと思う。しかし、この取組が社会に広く情報発信されていないのが残念である。特にセシウムの研究などは、全国に発信する研究レベルであり、戦略的な広報体制を整え、社会にアピールする必要がある。例えば全国レベルの取組は、東京キャンパスで記者発表するとともに、つくば地区でも行うなどの体制を更に充実してほしい。東京での記者発表が記事にならない場合の方が多いと思うが、記者との人脈を作ることも必要であり、その結果として記事になる場合がある。
- △ ご提案については、今年、試行的にオリンピックの結果を踏まえ、記者会見を東京キャンパスで開いたところ、スポーツ紙や一部の週刊誌などの新たな層が来てくださった。それでも全国紙でそれを取り上げてくれているという状況ではなかった。大学としては、全国的に発信したい情報については東京とつくばの2か所に対応したいと考えている。

議事終了後、佐藤計算科学研究センター長から、席上配付資料に基づき、計算科学研究センターのこれまでの活動と将来構想について説明があり、意見交換が行われた。

以上